

たかのす分校の就業体験学習の取り組みについて

本校高等部では他の特別支援学校と同様に、生徒たちの働く力を育む実践的な学習活動として、校内で「作業学習」と「校内実習」、実際の職場や施設等で「現場実習」に取り組んでおります。しかし、「働く力」に加えて、生徒たちが「主体的な進路選択・決定を行う力や態度」を育てていくためには、さらに多くの職種・作業種の仕事を体験する機会が必要であると考えました。

そこで、本校では生徒たちが様々な業種の仕事を体験し、その業務の概要を知り、自分の適性を考えていく「就業体験学習」を、実習とは別に実施しております。

就業体験学習のわらい

- ・ 様々な業種の仕事を体験することで、その業種の概要を知る。
- ・ 体験した作業の中から、得意なことやできそうなことを発見、開拓する。
- ・ 職場の方々とのかかわりを通して、コミュニケーション能力を高める。
- ・ それぞれの職場のルールやマナーを学ぶ。
- ・ 自分たちが住む地域の理解を深める。
- ・ 生徒間で働く姿を学び合う。



就業体験学習の概要

- ・ 生徒の進路希望や実態に即して編制したグループに分かれて、事業所を訪問し仕事を体験する。（一般就労希望の生徒は一般事業所で。福祉的就労の生徒は福祉サービス施設、及び一般事業所で実施）
- ・ グループは生徒2～3名ずつとし、1つのグループにつき教師1，2名が付き添い、ジョブコーチ的な支援を行う。
- ・ 年間でⅠ期（5月）とⅡ期（9月）に分けて実施。各期で3週間の中で計6回ずつ実施する。
- ・ 期間中は、原則として火曜日と金曜日に実施。火曜日と金曜日で別々の事業所を訪問し、2時間程度の作業体験を行う。
- ・ その日のうちに振り返りと反省を行い、併せて課題分析と次回の体験の目標設定を行う。

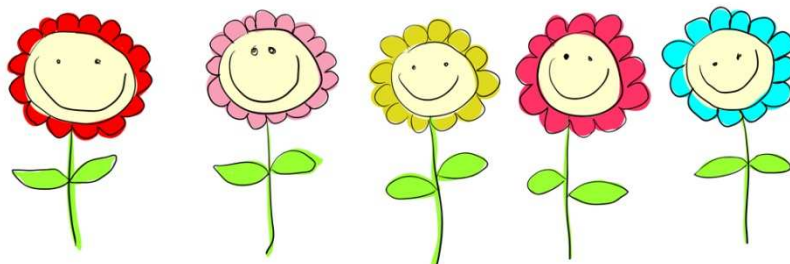
就業体験学習と校内・現場実習との相違点(各期につき)

	現場実習（たかのす分校の場合）	就業体験学習
期間	2～3週間（月～金連続して）	3～4週間（火、金のみ）
体験時間	終日（6～8時間）	1日あたり2～3時間
場所	1事業所	2事業所
体験内容	集中的に・深く	広く・浅く
教師の支援	巡回指導等で間接的に行う	ジョブコーチ的、直接、即時的に行う
生徒の人数	1事業所に1人	1事業所に2～3人
学習の形態	作業学習	職業（一般就労希望の生徒） 生活単元学習（福祉的就労希望の生徒）

これまで就業体験学習にご協力いただいた事業所等（平成22年3月現在）

No.	事業所名（業種等）	体験作業の内容
1	A社（製造）	刷毛の検品、組み立て、修正、箱詰め
2	B店（ホームセンター）	商品の値札つけ、売り場整理、レジ補助
3	C社（清掃）	北秋田市内の病院内の清掃
4	北秋田市図書館	本の整理、修復、カウンター業務
5	市民プール、体育館、文化会館	施設内の清掃、水質検査
6	北秋田市社会福祉協議会	書類の折り込み、福祉用品カタログの差し替え、封筒のラベルはり
7	D店（美容室）	タオルのアイロンがけ、店内の清掃、パーマペーパーのリサイクル作業、
8	E社（製菓）	菓子袋の商品ラベルはり
9	鷹巣郵便局	郵便物の仕分け、集配、カウンター業務
10	F店（ガソリンスタンド）	接客、窓拭き、洗車、給油、雑巾たたみ
11	G店（仕出し店）	惣菜の盛り付け、食器洗い、箸袋折り、簡単な調理、弁当箱のラベルはり
12	H店（生花販売）	花の水やり、店内の清掃
13	I社（製造）	カーオーディオのゴム部品製造
14	J社（ゴルフ場）	ゴルフ場の草刈り、草厚め、整備
15	K保育所（保育所）	保育補助、園内清掃
16	L店（ホームセンター）	品出し、売り場整理
17	M社（製造）	アイロンがけ、生地への印付け、検品
18	N社（製麺）	製麺補助、ラベルはり、商品の梱包
19	O（農事組合法人）	野菜の収穫、小豆の選別
20	P（福祉工場）	画板の組み立て
21	Q（知的障害者施設厨房）	調理補助（食材の下ごしらえ）
22	R（知的障害者施設パン工場）	パンの製造、パン袋のラベルはり
23	S（知的障害者施設作業班）	せんべい作り
24	T（知的障害者施設作業班）	ハーブの摘み取り、山菜の皮むき
25	U（知的障害者施設作業班）	洗濯物たたみ、仕分け、園内清掃
26	V（就労継続支援B型施設）	配食サービス用保温袋の洗浄、印つけ
27	W（地域の理解者の農場）	野菜の収穫、漬物作り
28	北秋田市障がい者生活支援センター	利用者の活動メニューの体験

※進路選択の幅を広げるために、原則として現場実習先とは別に事業所開拓を行っています



就業体験学習の様子



ガソリンスタンドでは仲間と協力しながら、お客様の大切な車の窓をていねいにふきました。



ゴルフ場では、広大な敷地の中で、乗用草刈りを使った作業も体験させていただきました。



図書館での作業の様子。生徒たちは作業の指示を聞き、熱心にメモをとっています。



I社では社員の方々の製造ラインの入り、作業機械の操作も体験しました。安全と正確さが要求されます。



保育所では園児たちと一緒に遊ぶことを通して、自分が大人であるという意識を高めることができました。



ホームセンターでは、お客様に気を配りながら、広い店内での品出し作業を行いました。



M社でのアイロンがけ作業の様子。社員の方々の手際良い仕事ぶりから、多くのことを学びました。



プールの清掃作業の様子。利用者が気持ちよく安全に利用できるようにするための大切な作業です。



社会福祉協議会では、仲間同士で机を囲み、スタンプ押しをはじめ、様々な事務補助作業を体験しました。



入所施設の居室清掃作業の様子。指導員の方の指示をよく聞いて、部屋の隅々まできれいにしました。

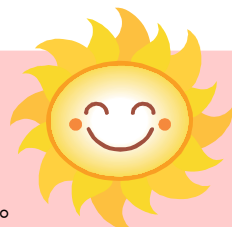


農事組合法人の農場では野菜の植え作業を行いました。学校の畑よりもずっと大きな畑で汗を流しました。



パン工場では、中身となるチョコの量を1個分ずつ正確に量って、心をこめて生地で包みこみました。

就業体験学習の成果



◆生徒の変容

- ・ 様々な職業に対する理解が深まった。
- ・ 様々な職業の仕事の中で、自分の得意なことを見出すことができた。
- ・ 体験した業種間で自分が好きな業種、自分に向いている業種を見出すことができ、進路希望を具体的にもつことができるようになった生徒が増えた。
- ・ 職業間での人とのかかわりが一律でないことに気付き、周囲に配慮した行動がとれるようになった（ルールやマナーの理解の深化）
- ・ 職場の方々とよりよくかかわることができるようになり、働くことが楽しいと実感できるようになった。
- ・ 職場での成功体験が自信となり、現場実習への不安感や抵抗感が少なくなった。
- ・ 同じ職場での体験を共有したことで、仲間と共感的な話し合いができるようになった（学びあう姿勢の育ち）。

◆より良い支援につながる成果

- ・ 職場での作業体験における生徒のつまずきや課題点を把握することができ、即時的な支援により、「できないこと」を「できること」へつなげることができた。
- ・ 教師も様々な職業に関する専門的な知識を生徒と一緒に深めることができた。
- ・ 自信をもって生き生きと働く生徒たちの姿を、職場の方々や地域の方々に知ってもらうことができた（地域への理解啓発、障害者観の広がり）。
→教師が引率することで受け入れ先の不安も少なく、結果的には生徒たちの頑張る姿が高く評価され、今後の実習受け入れや雇用を示唆する話を出されたこともあった。

